



清水てつじ

〒520-1121 高島市勝野129-3
TEL 0740-36-2077 FAX 0740-36-0237 <http://shimizu-tetsuji.jp>



箱館山スキー場

県議会 レポート

2010年1月発行

知事へ要望 12/15

新年度予算編成では、約230億円の財源不足が見込まれるため総額57億円の事業見直し案が提示されました。しかし、県民生活を勘案した場合削減すべきでない事項を知事に要望しました。



- 一、市町に対する助成金について
- 一、福祉・教育振興基金の活用について
- 一、地域経済の活性化と雇用創出について
- 一、医療施設の助成金について



委員会活動報告

清水てつじ 議員

造林公社問題対策特別委員会
分収育林の現地
甲賀市黄瀬事業地へ。



間伐を進め伐採木の販売事業をうまく進めるため、山林所有者と造林公社の話合いが進められている。林道を整備することや機械化の推進も、高齢化する労働者への必要な支援策。

角川誠 議員

総務・政策常任委員会
静岡県地震防災センターへ。

東海地震に備えた防災施策をつぶさに調査。津波対策は、滋賀県に直接関わらないものの、防災情報連絡体制や建物の耐震補強に関しては、県民共同で推進する共通課題である。



沢田たか子 議員

厚生産業常任委員会
見直し予定の県立福祉施設へ。

昭和55(1980)年建設のさつき荘では、社会福祉事業団により97歳から63歳の方に、健康で明るく心豊かな生活が送れるよう取り組まれている。居室の個室化が課題。見直し計画では、平成23年3月に指定管理契約が切れるため、民間移管への説明も始まっている。



さし武司 議員

経済雇用対策特別委員会
長浜市にある高橋金属株式会社へ。

環境関連事業の取り組みと新技術の開発に必要な支援や施策等の条件整備について現場で調査。冒頭で委員長としてのお話あり。



10/26, 27

会派の活動報告 / 県外調査

滋賀県内では、県民が食へる約2倍の米が生産されていますが、野菜類は約4割しか確保されておらず、食糧問題としても、農業・農村問題は重要です。滋賀農業の更なる発展・展開に向け、地球温暖化にも対応し、高齢化など近年の農業問題に打ち勝つために、それぞれ地域の特徴を活かした品種改良やブランド化への展開・成果等を近接する北陸3県で調査しました。新しい品種改良をするには、ねばり強い研究と作る人の根気が詰まっていることを再認識できました。



富山県 農林水産総合技術センター

暑さにも、低温・日照不足にも負けない、美味しくて「元気なお米」てんたかく「てんこもり」は、首都圏へ販路拡大。その他にも、酒米の「富の香」や、コシヒカリの遺伝子を98%引き継いだ赤米「富山赤71号」は味もよく、なにより抗酸化性が高いので健康食にもなると研究開発にも力を注がれています。



富山赤71号試食

石川県 農業総合研究センター

地域農産物をブランド化し、企業と連携を計りながら地産地消と併せて市場の拡大を展開されており、活性化した産地の説明も受けました。そして、約2000粒の種子の中から厳選された新品種のリンゴ「秋星」を紹介して頂きました。



秋星試食

福井県 農業試験場

ここでは、国の委託を受け現在に至るまでに計40品種の米を開発。近年の登熟期間の高温による品種劣化が問題になる中、暑さや風雨に負けない新品種「あきさかり」を紹介して頂きました。冷めてもおいしいご飯になります。



あきさかり試食



11/27

会派の活動報告 / 県内調査

55歳の滋賀会館

滋賀会館

平成20年に廃止された館内大ホール

平成20年9月末の大ホール閉鎖に続き、滋賀会館を本年3月末で公の文化施設としては廃止する条例案が議案として出されました。館内で働く職員の思い、利用者の願いをくみ取り、さまざまな立場から十分な議論をすることが大切で、11月議会審議にも反映しました。



屋上から県庁一望

